

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500432		
法人名	株式会社 モナトリエ		
事業所名	グループホーム モンテラッセ		
所在地	〒802-0978 福岡県北九州市小倉南区蒲生2丁目4番11号 Tel 093-967-0816		
自己評価作成日	令和05年12月26日	評価結果確定日	令和06年03月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年03月02日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カフェのような雰囲気福祉施設のような感じを持たず居住空間は落ち着いた内装、照明、空調などの住環境空間に努めています。
無資格者に対し認知症基礎研修の受講支援やスタッフが希望する研修の参加費負担、他社施設の見学などを実施することにより個人のレベルアップを図り理念実現に向けた活動を行っています。
退院されレベルが下がって帰園された方に対し、しっかりと個別ケアを取り組まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一人ひとりの願いが叶うより所となるように」を理念の柱とし、デイサービス併設で2017年12月に開設された定員18名のグループホームである。珪藻土の壁や畳、木材等を多用した落ち着いた雰囲気の生活空間、日光浴を楽しめるサンルーム、重度の利用者が安心して入浴出来る特別浴槽の設置等、利用者本位の安心安全な暮らしを支援している。ホームドクターと訪問看護師、介護職員との連携で、24時間利用者の健康管理を行い安心の医療体制が整い、看取り支援も行っている。新型コロナ5類移行に伴ない、感染症対策を徹底しながら部分的に面会を解除したり、散歩やドライブの機会を増やしたり、手の込んだ行事やレクリエーションに取り組む等、利用者が元気で明るい様子を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「モンテラッセ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員に関しては面接の時や入社後のオリエンテーションで理念、目的、目標、行動指針をお伝えしている。また、元々いる職員に関しては勉強会や委員会の時に必ずお伝えしている。ただ、100%の達成には至っていない。意識向上に向けた落とし込みが今後の課題である。	ホームが目指す理念を見やすい場所に掲示し、理念の意義や目的を理解して、「一人ひとりの願いが叶う拠り所」となるホームを目指し、日々取り組んでいる。また、入職時には必ず理念について説明を行い、職員一人ひとりが理解をして利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の夏に4年ぶりに開催された地域の盆踊りに参加できた。ボランティアの受け入れもお花教室などの先生が来られ2か月に1回ではあるが開催している。	コロナ収束後を見据えて、社会福祉協議会主催の「ボランティア活動合同体験会」に参加する等、地域に開かれた事業所を目指した取り組みを始めている。町内会会長から、地域の行事や活動の情報を得て、地域の会議や盆踊り(4年ぶり開催)、除草作業等に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた認知症の人の理解や支援方法をお伝えは出来ていない。今後は地域共生を考えマルシェなどの開催を検討していきそこで意見交換の場などの開催を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が5類に移行されてからは数回対面形式にて会議をおこなっている。意見交換を交わす場面ではご家族様からの要望に応え実施している。	新型コロナウイルス5類移行に伴ない、対面の運営推進会議を開催し、ホームの運営や取り組み、利用者状況、事故等を報告し、参加委員から意見や質問、情報等を提供してもらい、ホーム運営や業務改善に反映させている。	知見者、民生委員、薬剤師、市民センター館長、他事業所管理者、元家族等、幅広く参加を募り、ホームと家族、地域が協働して、地域福祉の拠点となるような会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は指定更新もあり、本庁の介護保険課担当者とは密に連絡を取り合い取り組み方や協力関係を築いていた。困った時はメールかまたは電話にて連絡をとっている。	管理者は、介護の疑問点や困難事例について行政担当窓口と相談し、空き状況や事故報告を行う等、情報交換しながら協力関係を築いている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの運営や取り組みを報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省が発出している身体拘束ゼロを元に指針やマニュアルの作成を実施している。また研修や委員会活動(3か月に1回)にて見回り活動も実施している。万が一発見した場合は直ちに報告し、委員会の開催なども周知している。	身体拘束等適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、職員間で話し合いを行っている。身体拘束職員研修は、管理者が、スライドとペーパーの資料を使って、禁止行為の事例を挙げて検証し、職員は身体拘束が利用者にも及ぼす弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	厚生労働省が発出している虐待防止を元に指針やマニュアルの作成を実施している。また研修や委員会活動(3か月に1回)にて見回り活動も実施している。万が一発見した場合は直ちに報告し、委員会の開催なども周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業計画の中に権利擁護を取り込み、新入職員のOJT研修や既存のスタッフにも研修を通して実施している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を活用し、利用者や家族が必要な時には、制度の内容や申請方法について分かり易く説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。現在、制度を活用中の利用者があるので、後見人とのやり取りを通して制度への理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居も申し込みから契約締結後も継続して利用者や家族に気になる点は気軽に尋ねていただけるような声掛けや雰囲気作りに努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に、利用者様の様子や要望に対しての気になる事などをお話できるようにこちらから声掛けして話しやすい雰囲気作りに努めている。	家族面会時や電話でこまめに報告を行い、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、出された内容を運営や利用者の日常介護に反映させている。季刊紙「テラス」を発行し、ホームでの暮らしぶりを家族に伝え家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から現場で職員との意見交換や業務改善などに取り組まれている。今後は職員アンケートなども実施していきたい。	朝夕の申し送りはユニット合同で行い、利用者の状況と日常の業務の流れを確認している。職員会議は、その日の出勤職員で話し合い、ノートで周知をして確認を行っている。人事考課を取り入れて年2回面談を行い、思いや要望を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートの活用や面談の実施を行うことで職員が振り返る機会を設けている。向上性が伸びるように職場環境の改善や個人の評価を賞与などに反映されるように取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢に関わらず広く募集し、適切な面接を行った結果で採用を行っている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先している。採用後は外部や内部の研修の参加や資格取得を奨励し、介護技術の向上に取り組んでいる。管理者は職員の特技や能力を活かした役割分担や職員一人ひとりの事情に配慮した勤務体制等、職員が生き生きと働けるよう取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の一環として行動指針にある一部を毎朝の朝礼時に確認している。新入職員は特に言葉遣いに徹底し研修DVDを活用し研修している。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて外部研修を受講し、伝達研修で職員全員への周知に取り組んでいる。職員は、利用者を人生の大先輩として敬い、言葉遣いや対応に注意して、利用者一人ひとりを尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の会話や面談時に職員の得意、不得意を聞き仕事の采配を行っている。また、不得意な分野については内部研修や外部研修の参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社で実施している月1回の自学勉強会の活動に取り組んでいる。また、病院で開かれる研修会などにも足を運べるように案内を出し参加を促している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居に関して、インテークと事業所内での情報の周知、契約時に本人や家族への再アセスメント等と通じて要望の聞き取りと安心感を持っていただけるような取り組みに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近では家族様との連絡ツールを増やし、気軽に要望や不安な事などを受け入れやすい体制を努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態や家族様の要望を踏まえ、初回のケアプラン作成時に反映している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般や共同作業を一緒に実施することで良好な関係性の構築を図っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染が5類に以降してからは面会の回数や時間を制限せずいつでも来所していただけるように連絡し、透明化を図り、その際に相談事などを聞ける体制に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を大切にできるように面会制限を設けず遠方からでも来所できる環境に努めて参りました。外出場所も全員を連れて行けるように家族様にも協力いただき支援を図っています。	利用者の家族や親戚、友人等の面会も多く、利用者との交流を大切に、コロナ状況を判断しながら自由に面会出来るように取り組んでいる。1階の「なつかしのコーナー」には、懐かしい品々が展示され、利用者や来訪者の心を和ませている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内でのトラブル回避も考え、席の配置や交流がとれるイベントなどを開催することにより関係性が築けるように努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りなられたり、長期入院で退去されたご家族様にも今後のサポートをできるようにお気軽にご相談しやすい環境を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活リズムをアセスメントすることにより意向に沿えるような取り組みを実施している。	ホームでの日常会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有して介護サービスに反映させている。意志を表出することが難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、その表情や仕草から思いを汲み取り、利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様や本人様に関係のある人にもお話を聞くことにより今まで通りの生活リズムを崩す事の無いように把握し努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を目に通し、職員全員が把握できるように意見交換を実施し、早期に心身状態の変化に気が付けるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の情報をもとに面会時に来られた家族様にも意見を伺い、遠方の方には電話連絡やメールの活用で現状をお伝えしてケアプランの改善を実施している。	家族の意見や要望を面会時や電話で聴き取り、介護計画に反映させている。カンファレンスの中で職員間の気づきを出し合い、利用者の情報を共有し、利用者本位の介護計画を、短期3ヶ月長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や朝礼時に情報共有、モニタリングによるケア内容の見直しに取り組んでいる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険以外のサービスを取り入れプラスワンサービスを心掛け遠方から来所される家族様を最寄りの駅まで送迎を行ったりと来所しやすい環境作りを実施しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーで買い物をしたり、コーヒーショップでコーヒーを飲みながらお喋りしたり、地域行事の参加を取り入れ入居者様が出来る限り豊かに暮らせるように支援しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	奥医院様の往診を中心としながらも、ご本人様、ご家族様の希望に応じて対応している。また、施設側も病院の勉強会等に参加し、他の医療機関との交流を持ち入居者様が適切な医療が受けれる選択肢を増やせるように活動している。	入居前に、利用者や家族と話し合って主治医を決めている。現在は、全員、協力医療機関医師が主治医で月2回の往診を受けている。専門医へは必要に応じて受診している。訪問看護師とも連携し、24時間安心の医療体制が整っている。利用者の急変時には、主治医や訪問看護師に連絡を取り、救急搬送する体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との情報共有をはじめ、1Fにあるデイサービスの看護師にも相談できる環境を整えています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、当該病院のソーシャルワーカー、退院支援看護師などとこまめな情報共有、カンファレンスの開催を実施している。また、病院関係者と連携できるように積極的に当該病院である勉強会に足を運んだり、オンライン研修会の参加などを実施している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新入居時に看取り体制についての説明と意向の聞き取りを行い、入居後においても心身の状態によって必要に応じて医師から利用者様や家族様へ看取り期の対応の説明や希望の聞き取りを行っている。	重度化や終末期に向けた方針を説明し、利用者や家族の希望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に連絡を取りながら話し合い、希望があれば看取りの支援を行っている。開設してこの5年間で数名の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は協力医療機関の医師、看護師の指示を仰いで対応。また、年1回の研修でも取り入れている。他、病院の救急救命士による講義を受け入れる予定。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	北九州市の危機管理室の方に直接お話を聞き、それを元に災害時の対策、対応の勉強会を実施している。消防署よりDVDの貸し出しもあるので活用している。避難経路、食料品の場所、消火器の位置などは写真をとり全職員が把握しやすいように努めている。	非常災害に備えた避難訓練を昼夜を想定して定期的実施し、非常口、避難経路、避難場所を確認して、1階の駐車場まで誘導する訓練を行っている。また、向かいにある事業所を含め、地域と防災協力体制を築いている。飲料水、非常食、非常用持ち出し袋を準備している。	エレベーターが使えない場合を想定した訓練等、具体的な内容の訓練を丁寧に行う事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入社員の方には必ず接遇研修をカリキュラムに入れ講義している。行動指針にも取り入れ実施しているが浸透率がまだ上がっていかないのが今後の課題である。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、内部研修や職員会議の中で話し合い、ホームの中で利用者が安心して穏やかに暮らせるよう支援している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動や行動を観察し、傾聴できる環境に努め入居者様が自己決定できるように取り組んでいる。また、同じ空間で話しにくい場合は1Fの交流スペースなども活用している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な職員への教えは『主体はご利用者様』とお伝えしている。それに沿ってのケアを実施している。個々の対応は臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては入居時にご自身が選んだ物を持って来られたり、衣替えの時期はご家族様と一緒に自宅へ衣類をとりに行かれたりしている。季節に合わせた身だしなみに努めています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクやイベント食の時は共に行っています。また通常時では積極的に後片付けなども行っていただいています。食欲が一層増すように畑で採れた野菜を使っの料理なども実施しています。	配食サービスを利用し、副食を陶器の器に盛り付け、食べにくい方にはムースで提供し、ホームで軟飯や粥を炊いて利用者の状態に合わせて対応している。新型コロナウイルス感染症対策の為、外での飲食は全面的に控えているが、ホーム駐車場でマルシェを開催し、キッチンカー3台が来訪して、利用者や職員が楽しいひと時を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は日々観察し、変化がみられる際は家族様にも協力を依頼し、本人様が好むものを提供していただいています。また、こちらでも様々なチャレンジを実施してバランスが採れるように工夫に努めています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人様に合った口腔ケアを実施している。可能な限りご自身でできる所は実施していただき出来ないところは支援しています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎時間のトイレ誘導、声掛けをすることで排泄パターンが決まってくるため工夫して実施しています。また、トイレでの排泄の根拠などをスタッフにお伝えしています。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、利用者のタイミングで声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間帯は利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導、パット交換等、状態に合わせた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主に水分摂取と運動、食事を考え内服薬の調整を実施しています。ご家族様へ理解いただきヤクルトの提供も実施しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の心身状態に合わせて入浴を実施しています。入浴方法も個々に合わせての実施、また季節に合わせて入浴剤の使用をしてリラックスできる環境に努めています。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら、週2回の支援を行っている。一般浴の浴槽と機械浴を設置して、利用者の状態を見ながら活用し、安心、安全に入浴できる環境を整えている。また、坪庭を眺めながら、利用者と職員が一对一で会話できる楽しい入浴の時間を大切に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠されるタイミングは個々により違うので一人一人に沿った対応を実施しています。自宅でご使用されていた寝具なども持ち込んでいただき対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、医師、訪看と情報交換を実施することでその方に合った内服を実施している。日頃の様子を観察し異変があればすぐに情報をお伝えできる環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事、脳トレや周辺散歩、ドライブの実施で気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	独歩の方はもちろん車椅子の方でもお出かけできる環境に努めている。また、ご家族様とともに外出・外泊支援も出来ている。	新型コロナ感染症対策の為、人が集まる場所への外出は控えている。車から降りないドライブや個別での買い物支援、自宅への一時帰宅、散歩等、感染症対策をしっかりと実行しながら、利用者の気分転換を図り、活気ある毎日になるように取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として、個人の金銭を預かることは実施していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様の希望によりいつでも連絡が取れる体制に努めています。また、本人が携帯電話を持っている方もいらっしゃいます。手紙等に関してはスタッフが支援しながらおこなっています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に関しては常に整理整頓、清潔を保ち季節に合わせた装飾品を飾ったりと四季を感じていただける仕様となっています。温度や照明にも配慮した環境となっています。	ホームは、2階建ての2階部分に位置する左右対称の2ユニットで、館内は、畳や木材、珪藻土の壁等、自然素材を活かした落ち着いた雰囲気的生活空間である。最新の空調システム、冷暖房機器、サンルームを設置する等、利用者が安心して暮らせる生活環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に好きな物を置いて自分だけの空間を作っています。そのほかにテラスなどにもソファを置いて日向ぼっこをしながら読書や昼寝もできる環境となっています。関係性により居場所づくりの工夫も取り組んでいます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新入居の際に馴染みの家具をお持ちいただき居心地よく過ごせる環境に努めています。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの物を持って来てもらうようお願いしている。家具やテレビ、使い慣れた身の回りの物、仏壇や家族の写真等、大切な物を持ち込み、利用者が安心して穏やかに過ごせるよう配慮している。室内は清掃が行き届き、清潔で居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立度をなるべく低下させないように居室の場所、トイレの場所を工夫してそこまでの距離を安全に移動できるかなどを考察して自立した生活が送れるように支援しています。		